

# 研修医通信 vol.9 (2010.12)

～研修医がつくった地域医療新聞～



## 研修医も妖しく魅せた!? 大忘年会号



絵  
近藤真理



紀南病院に来て約2ヶ月。医療過疎の現状を実感しつつも、温かい人々に触れとても有意義な時間を過ごすことができたと思う。住んでみて実感できることもやはり多い。例えば、医師が不足していること、少し話し言葉が三重の北のほうとは異なっていること、意外と寒いこと、坂道が多いことなどなど。この地方に来て研修できて良かったと思う。今後、医師として働いていく中で、地元の風習を理解し、一方通行にならないように努力していかなくてはならないと実感できた。研修の最後で、内科、外科、救急など様々な勉強をしてきた後で回れたことが本当に良かったと思う。お土産を持って津に帰宅しよう・・・（みかん？）ではでは、また会う日まで。

（鈴木慶亮）

紀南病院に来ては4週間目。来る前はもっと有り得ないくらいの田舎を想像していたのだが、生活してみると特に困るようなこともなかった。地域医療研修に来る前はなにも考えていなかったが、人に触れ、地域に触れ、ああこんなにもこの病院は地域の住民から愛されているのだなあと思った。今後私も医師を続けていくのであれば、そういう地域住民に愛されるような病院を作るのを手伝っていくのもいいのかもしれない。そういえばなにか当初の目標を忘れていた。ああそうだ。クジラをまだ見ていなかった。

（奥久徳）

あっという間の2か月でした。短いながらも、あれこれ好きなことをさせていただいたと思っています。普段の病棟業務以外にもイベントも多く、トリアージ訓練やタウンミーティング、消防署実習、県外研修など、院外に出るたびに内科の先生方にはご迷惑をおかけしたと思いますが、本当に良い経験になりました。県外研修で訪問診療に同行して、在宅の良さ・厳しさを垣間見たり、地域に向かうことでその土地の雰囲気を感じ、地域の方の生活の様子を聞いたり。普段の業務でも、私が担当していなければもう少しスムーズに専門医に紹介できていたのではないかと悩んだり、担当患者さんが亡くなって、自分には何ができたのか？と涙したり。もう厳しいかも…って思ってた患者さんが元気になったり、失語症になった患者さんがリハビリ頑張っちゃべれるようになって喜んだり、ご家族の愚痴を聞いたり。救急外来では内科疾患だけでなく、小児科や外科のファーストタッチもするというのに驚きましたが、度胸が付いたような気はします。短い期間でしたが、ここでの色々な出来事が全て自分の糧になっていると思います。もちろん休みの日にお出かけたことや忘年会も良い思い出です！

患者さんや病院スタッフの方々には本当にお世話になりました。ありがとうございました！

（近藤真理）

1ヶ月が経ち、病棟での研修にも慣れてきたのではないかと自分では感じています。

先日研修医と奥野先生、三石さんと田代公園のライトアップ鑑賞に行きました。想像以上の立派なライトアップで、入場は無料！小さい子供を連れた家族がたくさん遊びに来ていました。聞くところによると、地元の青年団の方々が、休日返上で設営しているとのこと。利益度外視で、地域の子供たちのために一肌脱ぐ青年団の方々の姿を想像すると…。いいものを見せてもらいました。

1月も頑張ります。引き続きよろしくお願ひします。

（西浜康太 ※ 編集長）

紀南はやっぱり暖かい！と思っていたら、全国的に暖かっただけみたいです。数日前から寒くなってきました。でも紀南の方々の暖かさには裏切られません。褒め上手な院長先生、地域医療の大先輩 笑顔が素敵な奥野先生、外来がお忙しい中相談に乗ってくださる西久保先生、私の直上司である面倒見よすぎの北出先生、クールだけどよく話しかけてくださる磯部先生、早口だけど一生懸命な野口先生、嫌な顔せず協力してくださる看護師さん、この方々無しでは患者様は退院できませんMSWのお二人、知恵を貸していただいています 検査の方々、わがままにも直ぐに対応して下さる三石さん、山口さん、そして地域住民、患者様……。

そんなみなさまに言いたい。いつもありがとうございます！

（横田万里子）